筑前あさくらJA米

1.種子更新率100%　2.食味向上（タンパク質含有率6.8%以下）　3.仕上げ水分14.5～15.0%　4.作付比率の厳守

令和5年産　稲作ごよみ

米は全量JAへ!!ーJA米基準ー
- ○銘柄が確認できた種子
- ○登録検査機関で受検した米
- ○栽培履歴記帳が確認された米
- ○残留農薬分析を実施した地域の米

筑前あさくら農業協同組合
朝倉地域担い手・産地育成協議会

農薬適正使用スローガン
1. 散布前に必ず農薬ラベルを確認！
2. 散布時に、近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底！
3. 水田では、農薬散布後の止水期間（7日間）を遵守！
4. 散布後に、必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！
5. 防除履歴は、正確に記帳！

1.育苗基準（老化苗・病害予防のため23日苗とする）

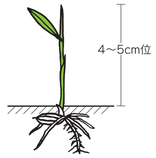
播種日よりの日数		主な作業
−7～−1	育苗準備期間	◎育苗箱は10a当たり20箱準備する。（ほ場未整備田では必要に応じて増やす。） ◎栽培履歴での適正な証明・品種固有の特性維持・病害虫予防のため、毎年**全量種子更新**を行う。 ◎**種子は10a当たり2.5～3kg準備**する。 ◎**土は10a当たり、あさくら培土4袋**または山土等100kg(5斗)を準備する。 山土には、70箱分の床土に育苗化成1kg（1袋）の割合で混和する。 山土2に対して籾殻くん炭1の割合で混和する。 ◎育苗期の**病害予防**のため、必ず**薬液**か**温湯**による**消毒**を行う。 【温湯消毒】手法についてはJA営農センターか普及指導センターへ尋ねる。
0	播種	◎播種前に床土に充分かん水後、苗立枯病予防のため **ナエファインフロアブル1000倍液を1箱500mℓかん注する。** ◎**播種量**は1箱**催芽籾で130g（1.1合）**を基準とする。（100箱分：水50ℓにナエファインフロアブル50mℓ） ◎覆土は充分に行う。（種子が隠れる程度） ◎**苗箱は日当たりが良く風通しの良い場所に並べ**、被覆資材で被覆する。
1～7	出芽・緑化期	◎被覆期間中のかん水は、土が乾いたら1日1回被覆資材をはずして行う。 ◎**徒長防止**のため、**苗の長さが4～5cm位になったら被覆資材を除去**する。 元気つくし・にこまる・実りつくしは苗が伸びやすいので他の品種より1～2日早く除去する。
8～22	硬化期	◎かん水は、覆土が乾いてから行う。 根張りを良くし、徒長を防止するため、夕方のかん水は極力避ける。 ◎弁当肥を施す。（田植前4～5日） 日中の高温・乾燥時には施さない。（葉焼防止）
23	田植	※箱施薬剤は、確実に1箱当たり50g施用しないと防除効果が劣る。 ※栽植密度は、60株／坪。（目安　19cm×30cm） ※ジャンボタニシ発生田では浅水管理を行い、スクミノン等を散布する。

【薬液消毒】

種もみ（乾もみ）	水	浸漬時間	農薬名	使用量（希釈倍率）	対象病害虫
5kg	10ℓ	24時間	テクリードCフロアブル	50mℓ（200倍）	いもち病・ばか苗病
			スミチオン乳剤	10mℓ（1,000倍）	イネシンガレセンチュウ
いもち病対策	上記にベンレート水和剤を20g（500倍）混用し、薬液消毒後、風乾し、浸種する。				

◎**芽立ちを均一**な状態に揃えるため、**浸種日数を充分に**とる。
◎種子は播種前日の夕方にあげる。（**ハト胸から1mm**程度）

【は種に適した催芽状態】

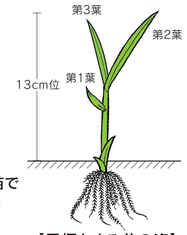


【被覆資材除去の目安】

もみ枯細菌病対策
1. 種子消毒の実施
2. 播種量は催芽籾130g(1.1合)
3. 風通しの良い場所に並べる
4. 被覆資材を長期間かけない
5. 水をかけすぎない

苗いもち病

育苗日数の長い老化苗で苗いもち病がでやすい

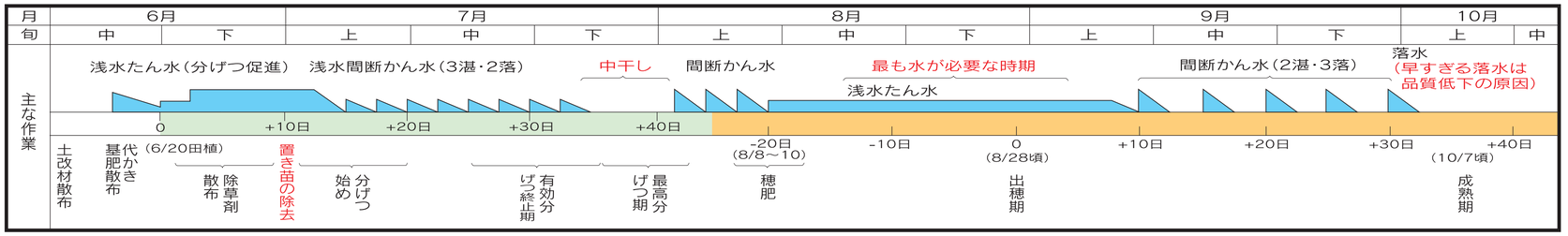


【目標とする苗の姿】

（弁当肥）

水50ℓにポット肥料350gを溶かし施用する。（100箱分）

2.水管理 ＜ヒノヒカリの水管理例（6月20日田植）＞　※夢つくし・元気つくしでは中干しの開始時期が早くなる。



以下の時期を除き原則として生育期間を通して間断かん水を行う。
●田植後10日～2週間は活着促進とジャンボタニシ予防のため浅水たん水を行う。　●田植後35日前後から中干しを開始する。（中干し期間は7日～10日間で強すぎないようにし、その後は徐々に間断かん水を行う。）
●幼穂形成期～出穂～開花期は水が最も必要な時期なので浅水たん水を行う。（幼穂形成期：出穂の20日前頃）　●台風接近時は深水にして風によるしおれを防ぐ。　●充実を良くするため落水は遅くする。

3.土づくり対策

資材の分類	資材名	施用量（10a当たり）	備考		
有機質	万能堆肥	2t	・腐植の増加 ・土壌通気性、保水性の向上 ・耕起前に硫安10kg/10aを施用（麦わらの分解促進） ・間断かん水の励行（根痛み防止）		
	麦わら	全量			
けい酸質	けい酸加里	40～60kg	・カリの供給	・けい酸の供給	・登熟向上 ・倒伏防止 ・病害虫予防
	ミネラルG	200kg	・微量要素の供給		
	ケイ鉄		・鉄分の供給		

4.施肥基準

施肥の留意点
・基肥一発肥料は、省力化を目的とした施肥例のため、年次により収量が減少することがある。原則として追肥、穂肥は施用しない。
・側条施肥の場合は、施肥量を5kg/10a減肥する。

【基肥一発肥料の施肥体系】

品種	肥料名	施肥量（10a当たり）	成分（%）N・P・K	成分量（10a当たりkg）N	P	K
夢つくし	夢ごころ一発	40kg	20・10・10	8.0	4.0	4.0
元気つくし ヒノヒカリ にこまる 実りつくし	元ヒー発1号	40～45kg	20・10・10	8.0～9.0	4.0～4.5	4.0～4.5

【分施の施肥体系】

品種	肥料名	施肥量（10a当たり）		成分（%）N・P・K	成分量（10a当たりkg）N	P	K
夢つくし	ちくごのめぐみ444	基肥	40kg	14・14・14	5.6	5.6	5.6
	きぼる穂肥エムコート	穂肥	15kg	20・0・16	3.0	0	2.4
元気つくし ヒノヒカリ にこまる 実りつくし	ちくごのめぐみ444	基肥	40kg	14・14・14	5.6	5.6	5.6
	きぼる穂肥エムコート	穂肥	15～20kg	20・0・16	3.0～4.0	0	2.4～3.2

5.除草剤使用基準

分類	除草剤名		使用量（10a当たり）	処理時期（田植後）	ヒエ類の葉齢
低コスト	サラブレッドKAI	1キロ粒剤 フロアブル ジャンボ	1kg 500mℓ 10パック	0～10日	2.5葉期まで
	ラオウ	1キロ粒剤 フロアブル ジャンボ	1kg 500mℓ 10パック	0～10日	
初期	カチボシ	1キロ粒剤51 フロアブル ジャンボ	1kg 500mℓ 10パック	0～10日	
	ジェイソウル	1キロ粒剤 フロアブル ジャンボ	1kg 500mℓ 10パック	0～10日 1～10日	
初中期	アバンティ	1キロ粒剤 フロアブル ジャンボ	1kg 500mℓ 10パック	0～12日	3.0葉期まで

※アバンティは、後作物に薬害を生じるおそれがあるので、後作物として**なす、たまねぎ**及び**さやえんどう**を栽培しないこと。
※広葉雑草の多いほ場では、処理時期内の早い時期に散布する。

初期除草剤使用上の留意点
1. 除草剤散布後は7日間落水口を閉め、たん水状態に保つことが大切。
2. 水持ちの悪い水田、軟弱苗では**薬害**が出やすいので注意する。

田植同時（当日）に初期除草剤を使用する際の留意点
○以下の条件では薬害が発生する場合がある。

条件	要因
根の露出	浅植え・浮き苗
	麦わらによる植え付け不良
	土壌が固く植え穴が戻らない
漏水田	代かきが不十分
	ほ場の水持ちが悪い

※田植同時処理の場合は、薬害のリスクを軽減させる為に2～3cm程度の植付け深度とし、必ず田面が見えない程度の水深で田植えを行う。

中後期除草剤	使用量（10a当たり）	処理時期（田植後）	対象雑草	散布時の水管理	処理の期限
ハイカット1キロ粒剤	1kg	15～25日頃	ヒエ類・広葉	たん水	収穫60日前まで
クリンチャーバスME液剤	1ℓ/水70～100ℓ	15～30日頃	ヒエ類・広葉	落水	収穫50日前まで
クリンチャーEW	100mℓ/水70～100ℓ	20～30日頃	ヒエ類のみ	たん水又は落水	収穫30日前まで
2,4−Dアミン塩	120g/水70～100ℓ	30～40日頃まで（有効分けつ終止期～幼穂形成期前）	広葉のみ	落水	収穫60日前まで

※クリンチャーEWのみ展着剤を混用して使用して下さい。

6.病害虫防除基準（箱施薬剤を使用することを前提とした構成となっているので、箱施薬剤を使用していない場合は、本田防除の効果が不十分となることがある。）

※ピンク色は基本防除

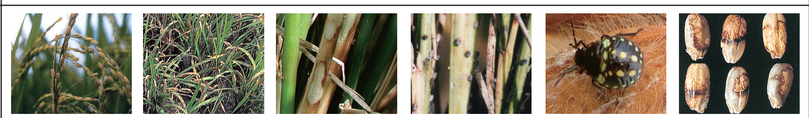
夢つくし・元気つくし

箱施薬：**防人箱粒剤　50g/箱（は種時～田植当日）　又は　ブーンゼクテラ箱粒剤　50g/箱（は種時～田植当日）**
（いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病・ウンカ・コブノメイガ）

8月 上旬
- **いもち病の補正防除**・・・・・・・出穂30日前～5日前にコラトップジャンボPを10～13個/10a散布。

8月 中下旬
- **ダブルカットパリダスタークル粉剤3DL** 4kg/10a（いもち病・紋枯病・カメムシ・ウンカ）**（出穂・開花期は使用を避ける）**
- **病害虫の発生にあわせて**
  - **ロムダンゾル** 1000倍（コブノメイガ）
  - **ノンプラスパリダフロアブル** 1000倍（いもち病・紋枯病）
  - **スタークル液剤10**（カメムシ・ウンカ）1000倍 **（出穂・開花期は使用を避ける）**
  - **ロムダンエアー**（コブノメイガ）
  - **ノンプラスパリダフロアブル**（いもち病・紋枯病）
  - **スタークル液剤10**（カメムシ・ウンカ）**（出穂・開花期は使用を避ける）**
- **ウンカ・カメムシの補正防除**・・・・・・・スタークル液剤10　1000倍
  スタークル粉剤DL　3kg/10a
  スタークル豆つぶ　250g/10a

9月 上旬



もみ枯細菌病　いもち病　紋枯病　ウンカ　ミナミアオカメムシ幼虫　カメムシ（被害：斑点米）

※防除をする際は、たん水状態で散布することで効果が安定します。
※粒剤の使用にあたっては営農センター・普及指導センターへお尋ね下さい。（粒剤は早い時期の予防散布用なので注意）

ヒノヒカリ・にこまる・実りつくし

8月 上旬
- **アプロードモンカットスタークルF粉剤DL** 4kg/10a（紋枯病・ウンカ・カメムシ）**（出穂・開花期は使用を避ける）**
- **病害虫の発生にあわせて**
  - **オーケストラロムダンモンカットエアー** 1000倍（ウンカ・コブノメイガ・紋枯病）
  - **スタークル液剤10** 1000倍（カメムシ・ウンカ）**（出穂・開花期は使用を避ける）**
  - **オーケストラロムダンモンカットエアー**（ウンカ・コブノメイガ・紋枯病）
  - **スタークル液剤10**（カメムシ・ウンカ）**（出穂・開花期は使用を避ける）**

8月 中旬

8月 下旬
- **出穂直前**
- **ダブルカットパリダスタークル粉剤3DL** 4kg/10a（いもち病・紋枯病・カメムシ・ウンカ）**（出穂・開花期は使用を避ける）**
  - **ノンプラスパリダフロアブル** 1000倍（いもち病・紋枯病）
  - **スタークル液剤10**（カメムシ・ウンカ）1000倍 **（出穂・開花期は使用を避ける）**
  - **又は　キラップフロアブル** 1000倍（カメムシ・ウンカ）
  - **ノンプラスパリダフロアブル**（いもち病・紋枯病）
  - **スタークル液剤10**（カメムシ・ウンカ）**（出穂・開花期は使用を避ける）**
  - **又は　キラップフロアブル**（カメムシ・ウンカ）

9月 上旬
- **ウンカ・カメムシの補正防除**・・・・・・・スタークル液剤10　1000倍
  スタークル粉剤DL　3kg/10a
  スタークル豆つぶ　250g/10a
- **（飛散防止対策）**・作物別、品種別の団地化
  ・適正な散布圧力、ドリフト低減ノズルの使用
  ・風の無い時に農薬散布
  ・畦畔から圃場の内側に向かっての散布

水稲品種特性表（6月20日田植）

品種名	出穂期	成熟期	耐病性 いもち病	耐病性 白葉枯病	耐倒伏性	栽培上の留意点
夢つくし	8/16	9/21	弱	やや弱	やや強	いもち病に著しく弱いので適期防除に努める。
元気つくし	8/21	9/29	弱	中	やや弱	
ヒノヒカリ	8/28	10/7	やや弱	やや弱	やや弱	刈り遅れると著しく品質が低下するので、適期収穫に努める。
にこまる	8/31	10/17	やや弱	やや弱	やや弱	茎葉が柔らかいため、中干しや間断灌水を徹底する。いもち病に弱いので注意する。
実りつくし	9/1	10/18	やや弱	中	中	いもち病に弱いので適期防除に努める。収穫時期が遅いので、水管理に注意する。

農薬、肥料、資材の注文はJAへ!

「令和5年度版病害虫・雑草防除の手引き」 http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/bojonotebiki.html

注）農薬は令和4年12月14日現在の登録状況に基づき、記載しています。